



渋谷区立原宿外苑中学校

第2学年

シラバスを最大限活用しよう！

渋谷区立原宿外苑中学校長

駒崎 彰一

シラバス(Syllabus) = 授業についての要項

担当の先生が1年間の授業計画(要項=ポイント)を伝えるためのものです。

授業内容、年間スケジュール、授業のねらいや目標、授業の形式、評価方法などの授業に関する情報が書かれています。

シラバスで目標の確認

シラバスには、授業のねらいや目標が記されています。

授業を通して、どんな知識や技能、資質・能力を身につけられるのか、迷うことのないように到達目標が設定されています。授業を受けている中で、目的を見失わないために重要な機能を果たしていくはずです。

シラバスで担当の先生や授業のイメージをつかむ

シラバスは、担当の先生が書いています。そのため、シラバスの内容にはバラつきがあります。細かく課題やスケジュールを設定している先生もいれば、基本情報以外は書かない先生もいます。先生ごとの性格がシラバスに表れています。細かく指導してくれる先生なのか、自分のペースで授業を進める先生なのかなど、担当の先生のイメージをつかむことができます。同時に、授業がどのように進められるのかが示されていますので、授業のイメージをつかむこともできるはずです。

シラバスを読んで事前準備

シラバスには授業に必要な心構えが明記されています。それだけでなく、事前に読んでおくとプラスになる情報が満載です。シラバスをよく読んで事前準備しておくことは、授業に主体的に参加して充実したものにするため重要なことです。

シラバスで評価方法を確認

シラバスを読めば、その授業の評価方法を知ることができます。評価方法は授業によって様々です。評価はテストだけではありません。提出物や授業に取り組む姿勢など様々な観点で評価され成績となります。これらの評価方法については、シラバスに記載されています。大切な部分ですから、注意深く読んでおきましょう。

シラバスは契約書

シラバスは、担当先生との間に交わされる契約書のようなものです。シラバスに書かれていることに従って、先生は授業を進めていきます。一方、生徒の皆さんはシラバスを読んで注意事項や約束事項を守る必要があります。お互いが有意義に授業に臨み、充実させるための契約書として、シラバスは機能しているのです。

定期テストを受けるにあたって

1. テスト1週間前

- ① 部活動は原則中止になります。放課後はすぐに下校します。
- ② 学習計画表などを活用して、テスト勉強に取り組みます。

2. テスト前日までに

- ① 試験範囲表などを参考にし、試験に必要なものを準備します。
教科によっては、特別なものが必要になることもあります。当日になってあわてないように前日に持ち物のチェックをします。
- ② テスト当日に、提出物のある教科もあります。忘れないように注意します。

3. テスト当日

① 開始前

- ア 机を整頓し、開始5分前の予鈴で着席する。
このときに、机の中は空にし、机の上は、筆記用具と消しゴム、指示されたものだけとします。
- イ かばんや荷物は、後ろのロッカーに置き、机のまわりには何も置きません。
- ウ もう一度机の中に、何も入っていないか確認します。
- エ 下敷きの使用は認められておりません。必要なときには前日までに担任の先生に相談をしておきます。

② 予鈴後

- ア あいさつをした後は、話をしてはいけません。
- イ 問題用紙は、裏返しにして、すみやかに自分の分を取り、後ろにまわします。
- ウ 配布部数に余りがあったり、足りなかったりした場合には、静かに手をあげ、指示を待ちます。

③ 開始後

- ア 監督の先生の【はじめ】の合図にしたがって、問題用紙を表にします。
- イ 枚数等に不備がある場合には、静かに手をあげて、監督の先生が来るのを待ちます。
- ウ 最初に、クラス、出席番号、名前を記入します。
記名のない解答用紙は採点の対象にはならなくなるので、必ず記名しましょう。

④ テスト中

- ア 丁寧に、誰もが読める字を心がけること。
- イ 特に漢字ははっきりと書きましょう。はっきりしない場合には採点対象となりません。
- ウ 消しゴムで消すときは、下の文字が残らないようにしっかりと消します。
- エ 質問や疑問がある場合には、静かに手をあげ、そのまま待つこと。
- オ 消しゴムや筆記用具、問題用紙等を落としたときは、静かに手をあげます。
絶対に自分で勝手に拾ってはいけません。
- カ 消しゴムなどの、物を貸したり借りたりすることは禁止です。
- キ 体調が悪くなった時には、すぐに手をあげて監督の先生を呼びます。
- ク 周囲を見回す(よそ見をする)、他の人の答案用紙を見るなどをしてはいけません(不正行為といえます)。
- ケ 不正行為はその時間のテストが0点になります。不正行為は絶対にやめましょう。

コ 早く終わったら、解答用紙をよく見直しをしましょう。

⑤ 終了後

ア 監督の先生の【終わり】の合図で筆記用具を置きます。

イ 監督の先生の合図のあとに、解答用紙に解答を書いてはいけません。

ウ おしゃべりをしたり解答の確認をしたり、他人の答案と見比べたりしてはいけません。

エ 各列、一番後ろの座席の生徒は、自分の答案の上に、順次前の人の答案を重ねて集めます。他の人は、静かに自分の席で待ちましょう。

オ 監督の先生が、答案を確認した後に号令をしてください。

カ 号令後は、次の時間の準備の時間です。トイレ等を早めにすませ、次の時間のテストに備えます。一日の最後のテストのときは、帰り学活の準備をします。

キ 問題用紙は、テストが返却されるときに使用します。無くしたり、丸めたりしないように、各自保管してください。

4. 答案が返却されるとき

① 机の上には、問題用紙と赤ペンのみを準備します。筆箱等を机に出してはいけません。

② 答案をよく確認し、先生の解説をよく聞きましょう。

5. 答案返却後

① 復習が一番大切です。できなかったところをしっかりとできるように心がけること。

② 自分の学習計画表を見直し、何がよかったか、何が悪かったのかを把握しましょう。

評価・評定に関して

1. 観点別評価

中学校では各教科の目標に応じて、その達成状況を「観点」ごとに評価し、A、B、Cの3段階で評価します。それぞれの「観点」には、学習目標が定められており、それを「評価規準」と言います。（各教科の「観点」については、各教科のシラバス【学習をすすめるにあたって】のページを参考にしてください）

各教科では、指導計画・評価規準に基づいて、それぞれの「観点」を定期考査、実技テスト、単元テスト、提出物、作品、レポートやプリントなどの資料をもとに点数化していきます。「観点」ごとに目標（評価規準）の達成状況を計算し、以下のように評価を付けていきます。

- 【A】：「十分満足できると判断できるもの」……………達成率80%以上
- 【B】：「おおむね満足できると判断できるもの」……………達成率50%以上
- 【C】：「努力を要すると判断されるもの」……………達成率50%未満

2. 評定

各教科の「評定」は5, 4, 3, 2, 1の5段階で記入します。「評定」は、「観点別評価」を、教科の特性や生徒の実態に応じた「重み付け」により100点満点に換算して計算をし、以下のように決定します。（各教科の重み付けは、各教科の【学習をすすめるにあたって】を参考にしてください）

- 5：「十分満足できると判断できるもののうち、特に高い程度のもの」・達成率90%以上
- 4：「十分満足できると判断できるもの」……………達成率80%以上
- 3：「おおむね満足できると判断できるもの」……………達成率50%以上
- 2：「努力を要すると判断できるもの」……………達成率20%以上
- 1：「一層努力を要すると判断できるもの」……………達成率20%未満

※ テストでよい点数をとっても、普段の授業態度がよくなかったり、提出物の提出状況が悪かったりすると、良い評価・評定は付きません。普段から学習に真剣に取り組み、積極的に参加することが大切です。

欠席・遅刻等による定期テストの対応について

定期テストは現時点での各教科の学習状況に測るものです。その結果はシラバスに示したように観点別評価の評価資料として用います。定期テストの全体の公平性と学習状況を正しく捉えるという点から、欠席・遅刻に関して次のような扱いをいたします。

1 出席停止による欠席（感染症等で出席が認められない場合）

- ・受験できない教科に対して、後日、試験を実施する。
- ・結果については当該教科で参考点とする。

2 病気等による欠席

- ・受験できなかった教科に対して、後日、試験やレポートを実施する。
- ・結果については当該教科で参考点とする。

3 遅刻

- ・職員室に登校の報告をし、自分の教室で受験する。
- ・テスト時間は正規の終了時間までとする。
- ・結果についてはその得点を評価材料とする。

4 自己都合による欠席（寝坊等）

- ・後日の定期考査の別試験は実施しない。
- ・結果は未受験とする。

国語科の学習を進めるにあたって 第二学年

☆2年国語科の課題

確かで豊かな言葉の力を養い、語感や感性を磨いて思考力・表現力を高める

課題克服のために

- ① 言葉の意味や働きを理解し、論理や感性を培う授業を皆で創ります。
- ② 1年次の国語科の学習を参考に授業目標を意識して言語活動を行い、系統的な学習の積み重ねを行います。

発展的な学習のために

- ① 授業で興味をもった事柄についての課題解決を自ら図り、知識や情報を豊かにして日常生活や学習活動で活用する。
- ② ノートやワークシートのメモ欄や記入欄を効果的に利用し、自主学習、補充学習へと発展させる。

☆学習活動への取り組み方

- ① ガイダンスで説明されたルールを守り、言語活動に積極的に取り組む。
- ② 自分の考えや他者の考えを大切にし、聞き合い、語り合っ、言語感覚や論理力を磨き合う。
- ③ 目的をもって学習活動に臨み、小集団活動においては互いに学び合い教え合う姿勢を大切に学習課題の解決を図る。
- ④ 補充教材やワークシートは学習後にファイリングし、その後の学習に活かす。

☆学習する上で注意してほしいこと

「話す・聞く」「書く」「読む」という3領域で構成される言語活動に加えて、「感じる・考える」活動を重視し、それぞれの技能や能力の向上を目指して学習活動に臨むことが大切です。4領域の言語活動の中で最も難しいのは「聞く（聴く）こと」です。音声をただ受け止めるのではなく、主体的に「聞き取る」「聞き分ける」ことができないと、話の要点をとらえて共感・批判し、考えを広げ深めていく力が身に付きません。先生の説明や他者の発言をしっかりと聞き（聴き）、さらに「聞き取る」「聞き分ける」ことを意識して聞きましょう。また、国語の学習活動では自分の考えをもち、伝え合うことが大切です。その際には、自分の考えの根拠も示せるようになりましょう。提出物や宿題は提出期限を守り、学習課題には丁寧に取り組んでください。

☆家庭学習の進め方

授業で身に付けた基礎的・基本的な言葉の知識(漢字・語句)は、家庭で復習することを常に心がけてください。自主的・計画的に進めましょう。また、言葉の力を高めるには読書生活を向上させることも大切です。多種多様な文種・分野の本を読むことで、自分の知識や世界を広げ深めることも大事なことです。様々なブックリストを参考にして新しい読書の世界を切り開いていきましょう。

☆テスト前の学習のしかた

定期考査では文章の読解、漢字の読み書き、語句・文法の知識、古典（古文と漢文）など多様な分野の問題が出題されます。授業の復習を必ず行い、出題範囲の文章を深く読み込み、感想や解釈、意見の根拠を明らかにして自分の考えを適切に表現できるようにしましょう。また、授業で暗唱した作品は覚え直すこと。大切な用語やキーワードも説明できるようにしましょう。計画的に学習に取り組み、地道な努力を継続させましょう。

☆一年間の学習内容

分野	学習内容	分野	学習内容
文学的文章	<ul style="list-style-type: none"> ・小説「アイスプラネット」「盆土産」「走れメロス」 ・詩「見えないだけ」 ・短歌「短歌を味わう」 ・短歌解説「短歌に親しむ」 ・言葉「言葉を比べよう」 ・随筆「言葉の力」「字のない葉書」 	論理的文章	<ul style="list-style-type: none"> ・説明「クマゼミ増加の原因を探る」 ・情報「『自分で考える時間』をもとう」 ・論説「モアイは語る」 ・評論「君は『最後の晩餐』を知っているか」
		古典	<ul style="list-style-type: none"> ・古文「枕草子」 ・古文「平家物語」「扇の的」「仁和寺にある法師」 ・漢詩「漢詩の風景」
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な方法で情報を集めよう ・気持ちを込めて書こう ・根拠の適切さを考えて書こう ・表現のを工夫して書こう ・魅力を効果的に伝えよう ・構成や展開を工夫して書こう 	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・要点を整理して聞き取る ・魅力的な提案をしよう ・聞き上手になろう ・立場を尊重して話し合おう
		読書	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の現場にようこそ
通 年			
【漢字と語句】 【書写】 【文法】			

☆評価について

知識及び技能	思考力・判断力・表現力			主体的に学習に取り組む態度
	話すこと 聞くこと	書くこと	読む力	
言葉の特徴や使い方 情報の扱い方 我が国の言語文化	話すこと 聞くこと	書くこと	読む力	
評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・小テスト（漢字の読み書き、語句、文法など） ・課題（暗唱など） ・提出物 ・書写作品 ・音読 ・創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・小テスト（聞き取り学習など） ・スピーチ、討論、話し合い活動など 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文（意見文、感想文など） ・創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文（意見文、感想文など） ・音読、朗読 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・作文 ・提出物 ・作品 ・発表 <p>*上記の取り組みや振り返りの記述等から総合的に判断する。</p>

社会科の学習を進めるにあたって(2年生)

◇2年生の課題

課題は

- ①基本事項の理解が大切です。そのためには日ごろの授業に集中して臨むことです。また資料から読み取り自らの考えをまとめることに課題を感じます。
- ②社会的事象を論理的に考え、表現することが苦手な傾向があります。

それを克服するために

- ①必ず教科書や資料集を活用して、自分の言葉で説明できるようにしましょう。
- ②自宅で復習を行い、授業の振り返りを行い、授業内容を把握しましょう。

発展的な学習のために

- ①プリント・ノートの中に、自分の意見を記述する箇所を増やし、論理的に考える習慣を身に付けさせる。
- ②世の中で発生している事象の中で生徒が興味・関心を持ちそうなものを選び、生徒が「なぜこうなるのか」や「どのような事象からこのような現象が起きるのか」を考えることで、社会的事象について、自分から合理的に思考する訓練を行う。

◇授業の進め方

- ①地理・歴史の授業は担当する教員が並行して授業を行う予定です。
- ②授業中は、地図帳・資料集など様々な資料を使用して教師の発問について考える、考えたことをプリント・ノートに書いたり、自分の言葉で発表する作業を通して思考力を深める作業を行います。

◇学習する上で注意してほしいこと

- ①授業で使うものを忘れないようにしましょう。普段使うものは、次の通りです。
地理の持ち物〔教科書・ノート・地図帳・資料集〕
歴史の持ち物〔教科書・ノート・地図帳・資料集〕
- ②授業の前は、前の授業で何をやったか確認をしておきましょう。
- ③「なぜだろう?」「どうしてだろう?」と考えることが大切です。どんな事象にも疑問を持つようにして、勉強を楽しんでください。
- ④自分が考えた意見は、積極的に発言しましょう。
- ⑤クラスの人意見によく耳を傾け、より深く考えることをしましょう。そうすることで、自分の意見の幅を広げましょう。

◇家庭学習の進め方

- ①授業があった日は、授業内容を復習しましょう。
※教科書を読む、ノートを確認する、ファイルを読み込んでいけば書いた箇所を見るだけでも学力はアップします。
- ②地理を復習・予習する時は、教科書・ノート・地図をみるのが基本です。
歴史を復習・予習する時は、教科書・ノートを確認する基本です。
- ③宿題は、必ずやり遂げ、決められた日に提出してください。
- ④ニュース番組や新聞を通して、世界や日本で起こっている出来事を知り、社会情勢を正しく見極める力を養いましょう。

◇テスト前の学習

- ①教科書・ノート・プリント・資料集を見直し、完全にできるようにしておきましょう。
- ②地理は、必ず地図で確認しながら復習しましょう。
- ③歴史は、ノートを使い整理(どこで・だれが・なぜ・何をした?・その結果は)をしましょう。
- ④丸暗記するのではなく、原因や影響など関連づけて大きな流れをつかみましょう。

◇1年間の学習内容予定

月	前 期		月	後 期	
4	(地理的分野) 日本の地域的特色 地形の特色、気候 人口、資源、産業 地域区分	(歴史的分野) 江戸幕府の成立と 対外政策 幕府の仕組み、身分 制度、鎖国下の対外 政策、琉球・アイヌ	10	(地理的分野) 近畿地方 自然・産業・歴 史景観 中部地方 自然・産業の移 り変わり・大都 市圏 関東地方 自然・首都東京 都市問題 東北地方 自然・生活・産 業 北海道地方 自然・歴史・農 業	(歴史的分野) 欧米の進出と日本の 開国 欧米のアジア侵略 開国と不平等条約 江戸幕府の滅亡 明治維新 明治維新と三大改 革 富国強兵と文明開 化 領土の確定 自由民権運動と立 憲国家の成立
5			11		
6		産業の発達と幕府政 治の動き 産業の発展、都市の 繁栄、元禄文化、 幕府の諸改革 新しい学問と化政 文化、外国船の来航	12		
7			1		
	日本の諸地域	開国と近代日本の歩 み 欧米における近代化 の進展 市民革命 イギリス・アメリ カ・フランス 産業革命と資本主 義	2		日清・日露戦争と 近代産業 条約改正、日清・日 露戦争、韓国と中国 産業革命の進展 近代文化の形成
9	九州地方 自然・産業・生 活 中国・四国地方 自然・交通・産 業		3	地域の在り方 地域をとらえる	

◇評価

- 1、知識・技能 *評価方法：定期考査、小テスト、プリント
 - ・社会的事項について知識を身につけ、理解しているか
 - ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだすことができているか
- 2、思考・判断・表現 *評価方法：定期考査、小テスト、プリント
 - ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだし、わかりやすく表現することができているか
 - ・歴史事象の大まかな流れを理解しているか
- 3、主体的に学習に取り組む態度 *授業時の取り組み、提出物、
 - ・課題レポート、プリント等の記述、小テスト(歴史分野)
 - ・授業に取り組む姿勢や発言

数学の学習を進めるにあたって 第2学年

☆ 2年数学の課題は

課題は：

- ① 文字式を使って説明すること。
- ② 方程式を利用して問題を解決すること。
- ③ 関数を利用して問題を解決すること。
- ④ 図形の性質を調べたり証明したりすること。
- ⑤ 起こりやすさを説明すること。
- ⑥ データを比較して判断すること。

それを克服させるために：

- ① 中学生としての良き学習習慣を身につける。
- ② 単元ごとに到達度テストを実施し、達成度と課題を把握して解決していく。
- ③ 問題集などを活用し、基礎の繰り返し練習を行う。
- ④ 多様な考え方を友達同士で共有する機会を増やす。

発展的な学習のために：

- ① 学んだことをもとにして、身近な問題や数学的な問題の解決方法について考える。
- ② 多様な考え方を追求することにより、数学に対する見方や考え方を深める。

☆ 授業の進め方

- ① 授業の課題を把握し、見通しをたてる。
- ② 自分の考えをもち、問題を解決する。
- ③ 友達の考えを知って共通点や違いを発見したり、話し合ったりする。
- ④ 授業を振り返って、分かったことや疑問に思ったことをまとめ、自己評価をする。
- ⑤ 新たな課題を見つけ、さらに考えを深める。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。
- ⑦ 単元テストや小テストで自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直ししながら、分からない部分を復習する。

☆ 学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な持ち物（教科書・ノート・問題集・筆記用具）を忘れないよう、毎回必ず準備する。学習内容によって、三角定規・コンパスが必要な場合もあるので、予め用意しておく。
- ② 授業中は先生からの指示をよく聞き、「話を聞く時間」、「自分で考える時間」、「友達と考えを共有する時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリのある授業にする。
- ③ 黒板やモニターの内容は、色分けなどをしてノートやプリントに書く。気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどを書き込み、自分なりに工夫してまとめるとよい。
- ④ 課題に対して積極的に考え、見通しをたてて自分の考えをもつ。友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。
- ⑤ 疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問する。
- ⑥ 宿題や提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆ 家庭学習の進め方

- ① 学習した内容は、教科書やノートを使って、その日のうちに復習をする。
- ② タブレットや問題集を利用して問題演習をする。
- ③ 問題を解いたら必ず答え合わせを行い、わからなかったことや、間違えたところを確認し、自分の課題を確認する。

☆ テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、ノートや教科書をよく見直す。
- ② 章末問題に取り組む。
- ③ 問題集の問題を解く。すべて解き終えたら、一度間違えた問題や分からなかった問題などを繰り返し解き直し、計算力や思考力をつける。
- ④ ノートや問題集のまとめをして提出の準備をする。

☆ 1年間の学習内容

前 期	後 期
第1章 式の計算 1. 式の計算 2. 文字式の利用	第4章 平行と合同 1. 説明のしくみ 2. 平行線と角 3. 合同な図形
第2章 連立方程式 1. 連立方程式とその解き方 2. 連立方程式の利用	第5章 三角形と四角形 1. 三角形 2. 平行四辺形
第3章 1次関数 1. 1次関数 2. 1次関数の性質と調べ方 3. 2元1次方程式と1次関数 4. 1次関数の利用	第6章 確率 1. 確率 2. 確率による説明
	第7章 データの比較 1. 四分位範囲と箱ひげ図
	○1年間のまとめ 問題演習

☆ 評価について

1 知識及び技能

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、ノート、問題集、プリント 等

- ・基礎的な概念や原理・法則を理解している
- ・学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したりしている。
- ・数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、ノート、プリント、話し合い活動、発表

- ・数学を活用して事象を論理的に考察することができる。
- ・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察することができる。
- ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業や課題への取り組み、ノート、プリント（個人内評価）、発表等

- ・授業に取り組む姿勢や積極的な発言
- ・ノートやプリントの記述

以上を総合的にまとめ評価する。

理科の学習を進めるにあたって 第2学年

☆2年理科の課題は

課題は：

- ① 興味関心は全体的によく、学習に関しても前向きである。発言も多く、お互いに声を掛け合って学習することも積極的に行う。しかし、時間とともに学習内容を忘れてしまう生徒が多い。
- ② 自分の考えをまとめて言語化（文章化）することが苦手な面がある。

それを克服するために：

- ① 授業で勉強したことの振り返りを友達同士で話し合う（言語化する）ことにより学習の効果が上がる。その時メモを取り、内容を明確にすることが大切である。
- ② 実験観察が終わったら、結果と考察をレポートにして提出する。この際、考察が最も重要視される。他者のよいレポートを参考にすることも大切である。

☆授業の進め方

- ① その時間の目標や課題を理解する。
- ② 課題に対して予想を立て、観察、実験を行う。
- ③ 結果から見出したことを整理し、発表する力をつける。
- ④ 自然科学の考え方を身につける。
- ⑤ 教科書やプリント等を使って重要な用語や考え方を確認し、学習内容をより深く定着させる。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。

☆学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な物は忘れない。
- ② 授業中、先生の説明や友達の発言をしっかりと聞く。友達の発言の中にも考え方のヒントが示されているので、自分の考え方の参考にする。
- ③ ノートやワークシートをきちんととる。板書事項はもちろんのこと、自分なりに工夫する。プリントはノートに貼る。
- ④ わからないときはそのままにせず、必ず質問する。疑問をもつとよい。
- ⑤ 実験、観察は積極的に行う。自分でやってみて自分の目で確かめ記憶にとどめることが必要。他の班員に任せるだけにはしない。
- ⑥ 宿題、提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆家庭学習の進め方

- ① その日の授業内容はその日に復習する。予習より復習が大切。
- ② 教科書・ノート(プリント類)を見直す。
- ③ 授業で学習した内容を、ワーク等で演習する。

☆テスト前の学習

- ① 教科書、ノート、ワークシートをよく見直す。
- ② ワークの問題を解く。わからないところはそのままにせず、解説を読んだり、質問したりする。
- ③ 観察、実験のまとめを見直す。結果だけでなく、観察、実験の注意なども確認をすること。

☆1年間の学習内容

	物理化学分野	生物地学分野
4月	<物理分野>	<生物分野>
5月	化学変化と原子・分子	生物のからだのつくりとはたらき
6月	1. 物質のなり立ち	1. 生物と細胞
7月	2. 物質どうしの化学変化	2. 植物のからだのつくりとはたらき
9月	3. 酸素が関わる化学変化	3. 動物のからだのつくりとはたらき
10月	4. 化学変化と物質の質量	4. 刺激と反応
11月	<化学分野>	<地学分野>
12月	電気の世界	天気とその変化
1月	1. 静電気と電流	1. 気象の観測
2月	2. 電流の性質	2. 雲のでき方と前線
3月	3. 電流と磁界	3. 大気の動きと日本の天気

☆評価

1 知識及び技能

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント

- ・基本的な概念、法則を理解している
- ・学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- ・実験、観察の様々なデータと、理解した法則と内容が一致することができる。
- ・観察、実験で使う器具の基本操作が身についている。
- ・観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- ・実験、観察のデータを論理的に考えることができる。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント、レポート、話し合い活動

- ・観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- ・観察、実験の考察を言語化できる。
- ・観察、実験のデータを適切な方法でまとめることができる。

以上のことから個人の内面での理解はもとより、論述や発表、話し合いで意見を共有できるものとする。

- ・観察、実験を安全かつ正しい方法を身につけ、かつ実践することができる。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業への取り組み、個人内評価 等

- ・授業態度や発言や記録
- ・自己評価

以上を総合的にまとめ評価する。

英語の学習を進めるにあたって 第2学年

2年 英語の到達目標

1. 【聞くこと】
はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要をとらえることができる。
2. 【読むこと】
日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の概要をとらえることができる。
3. 【話すこと（やり取り）】
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
4. 【話すこと（発表）】
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。
5. 【書くこと】
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

授業の進め方

- ① Unit 全体の目標や各 Part の目標（その日の授業の目標）を理解する。
- ② 授業内で達成すべき目標に向かって、さまざまな活動に取り組む。
活動は「聞くこと・読むこと・話すこと（即興で行う）・話すこと（準備をして行う）・書くこと」があります。一人で取り組んだり、ペアやグループ取り組んだりする場面があります。
- ③ ワークシートや問題集などに取り組み、活動を通して学習した内容の確認をし、理解を深める。
- ④ 学習した内容を活用し、定着を図る。
- ⑤ 定期考査や小テストなどで自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直しながら、分からない部分を復習する。

学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業で必要な持ち物を忘れないよう、毎回必ず準備する。
【持ち物】：教科書、ノート、ワークブック（問題集）、リスニング教材（後期に配布します。）、ファイル（プリントなどの保管用）、筆記用具
- ② 授業中は先生の話をよく聞き、「話を聞く時間」、「活動の時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリのある授業にする。
- ③ 気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどはメモをとり、以後の学習に生かす。疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問したり、調べたりする。
- ④ 宿題や提出物は自分のためになるように取り組み、期限を守って提出する。

家庭学習の進め方

- ① 学習した内容について教科書やノート、ワークブックなどを使い、その日のうちに復習をする。分からないことや疑問に思ったことは調べたり、先生に聞いたりして理解を深める。
- ② 学習した New Words（新しく習った単語）、Key Sentence（新しく学習した重要文）、教科書本文を声に出して読めるように練習する。デジタル教科書を活用し、モデルの音声と同じように読めるようにする（マネができるまで頑張ろう！）。
- ③ ノート学習に取り組む。提出あり。
（取り組み方については、授業内でプリントを配って説明します。）
- ④ 『英語のパートナー』（問題集）に取り組む。提出あり。学習した内容を理解することを目標とする。くり返し学習すると良い。
- ⑤ 授業で出された課題に取り組む。

テスト前の学習

- ① 教科書本文、Key Sentence の内容を理解する。声に出して読める、書けるようにする。
- ② ノートや教科書を見直し、授業で行ったことをふり返りながら、『英語のパートナー』（問題集）に取り組む。学習した内容を理解することを目標とする。くり返し学習すると良い。
- ③ くり返し『英語のパートナー』の学習に取り組んだ後、学習内容が理解できているか、覚えているかの確認のために『英語のパートナー』に取り組む。理解できていない、覚えていないところは、戻って学習する。
- ④ 授業で取り組んだ発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト、ライティング（書くこと）活動をふり返る。これらの内容について、声に出して言える、書けるようにする。

☆ 1 年間の学習内容

	学習する内容		学習する内容
4月	Unit 0 Unit 1 Let's Talk 1	11月	Let's Talk 3 Let's Listen 5 Unit 6
5月	Grammar for Communication 1 Learning <i>HOME ECONOMICS</i> in English Let's Listen 1	12月	Let's Talk 4 Grammar for Communication 5 Stage Activity 2 学び方コーナー③ Let's Read 2
6月	Unit 2, Let's Talk 2 Grammar for Communication 2 学び方コーナー① Let's Listen 2	1月	Let's Listen 6 Unit 7
7月	Unit 3 Let's Write 1 Grammar for Communication 3 Learning <i>TECHNOLOGY</i> in English Stage Activity 1	2月	Let's Talk 5 Grammar for Communication 6 Let's Listen 7 Stage Activity 3
9月	Let's Read 1, Let's Listen 3 Unit 4 Let's Write 2	3月	Let's Read 3
10月	Grammar for Communication 4 学び方コーナー② Let's Listen 4 Unit 5		

☆ 評価について

1 知識及び技能

☆評価資料：定期考査、小テスト、ノート、プリント、発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト

- ・英語の特徴やきまりを理解している。
- ・日常的な話題や社会的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを、語句や文を用いて話したり、書いて表現したり、伝えあったりできる。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価資料：定期考査、小テスト、ノート、プリント、発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト

- ・日常的な話題や社会的な話題について事実や自分の考え、気持ちなどを、語句や文を用いて話したり、書いて表現したり、伝えあったりできる。
- ・日常的な話題や社会的な話題について話されたり、書かれたりする文章などを聞いたり、読んだりして必要な情報や概要、要点などをとらえることができる。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価資料：授業や課題への取り組み、ノート、プリント、発表活動、ALT の先生とのインタビューテスト

- ・授業に取り組む姿勢や積極的な発言
- ・発表活動、ALT の先生とのインタビューテストに取り組む姿勢
- ・自己評価

以上を総合的にまとめ評価する。

音楽の学習を進めるにあたって 第2学年

☆課題

興味・関心をもち様々な活動に積極的に取り組む姿勢が多く見られます。一方で、自分の声を人に聞かれることに遠慮があり表現力が乏しくなることや、音楽を聴き感受したことを言葉で表現することに課題があります。

☆課題を克服するために

- ① ピアノやパート CD の周りなどで歌唱練習を行い、歌唱表現のアドバイスをします。
- ② 鑑賞時にグループで感受したことを互いに発表しあう時間をとり、多角的な視点や言葉の表現を知る機会を設けます。

☆発展的な学習のために

- ・歌詞の内容や作曲者の意図をくみ取り、自分たちならどのように表現するのか考え、豊かな表現活動につなげられるようにします。
- ・演奏を録音し、客観的に聴く時間を設けます。聴くことにより、課題に気付く力や鑑賞能力の向上につなげます。

☆授業の進め方

- ① 持ち物は教科書・合唱曲集・ファイル・筆記用具・(タブレット) です。
- ② 歌唱では、発声練習・パート練習・合唱練習を状況に応じて行います。
- ③ 鑑賞では、プリントを使用し、楽曲理解や音楽構成などについて学習をします。
- ④ その他、授業時数に応じて創作、楽器実技などを学習します。
- ⑤ 単元ごとに実技テストを行います。課題は授業内で練習します。

☆学習する上で注意してほしいこと

どの題材も一生懸命に取り組み、授業を作っているひとりとしての意識を強く持ちましょう。

- ① 「話を聞く時間」と「自分を表現する時間」の区別をつけましょう。
- ② 実技では、どの形態の練習も積極的に取り組みましょう。
- ③ プリントの内容は、工夫して丁寧に完成させましょう。

☆家庭学習の進め方

家庭では、様々なジャンルの音楽にふれ、音に対する感性を磨いてください。

☆テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、教科書やプリントをよく見直しましょう。
- ② 実技テストは、題材によって一人で行ったり、複数で行ったりします。授業での練習＝実技テストという心構えで臨んでください。

☆ 1年間の学習内容

月	単元	月	単元
4月	「サンタルチア」 「翼をください・旋律創作」	10月	合唱コンクールに向けて合唱練習
5月	「小フーガト短調」	11月	「オペラ アイダ」
6月	合唱コンクール課題曲 「時の旅人」	12月	「ミュージカル」
7月	合唱コンクール自由曲	1月	「三味線」
9月	合唱コンクールに向けて合唱練習	2月	「歌舞伎・文楽」
		3月	「創作」

●実際には、歌唱・鑑賞・理論が重複して授業は進行します。

●状況によって実施する順番が変更される可能性があります。

☆評価について

①知識・技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わりや音楽の多様性を理解している。

創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて表現している。

- ・評価内容…歌唱時の正しい姿勢、発声、音程、器楽の正しい奏法、音楽記号の理解と表現する技能、作曲家、楽曲、演奏楽器、歴史、楽曲がもつ音楽性の理解
- ・評価方法…観察・実技テスト・定期考査・プリントの内容

②思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。どのように表現するかについて思いや意図をもち表現をしたり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

- ・評価内容…楽曲がもつ音楽性の理解、歌詞への理解、音楽記号の理解とそれに伴う表現力、どのように表現するか思いや意図を持っている
- ・評価方法…観察・実技テスト・定期考査・プリントの内容

③主体的に学習に取り組む態度

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

- ・評価内容…授業中の態度や活動の主体性
- ・評価方法…観察・提出物・プリントの内容

美術の学習を進めるにあたって（2年生）

◇ 授業の進め方

- ① 持ち物は、鉛筆、教科書、資料集、レタリング字典、絵の具セット（デザインセット）、ファイルです。必要に応じて小型の鉛筆削り、油性ペン、色鉛筆、タブレット等を使用することもあります。鉛筆、資料集、レタリング字典、絵の具セット、ファイルは教材費で購入いたします。
- ② 作品制作では、関連作品を鑑賞するなど、これから作るものについて学習し、制作の手順や方法について説明を聞いて作業を進めます。良いものを作ろうと意欲的に取り組む姿勢と、計画的に制作を進め、期限内に完成させることを大切にしています。
- ③ 鑑賞ではワークシートを使い、有名な作品や作者、技法や美術のジャンルなどについて学習します。単元の中で、他の人が作った作品を鑑賞することもあります。また、そこから感じ取ったことを文章等で表現をしたり、話し合い活動によって考えを深めていきます。

◇ 学習する上で注意して欲しいこと

- ① 忘れ物に気を付けてください。
- ② 期限内に満足のいく形で作品を完成させられるように、集中して制作活動に取り組みましょう。
- ③ 提出の期限は守ってください。提出物には記名を忘れないようにしましょう。
- ④ 美術室の備品は全校生徒が使うものです。大切に扱い、次の人が気持ちよく使えるように、片付けまでしっかりと行いましょう。
- ⑤ 1時間1時間の授業を大切にするために、チャイムと同時に始められるようにしましょう。
- ⑥ 課題内容によって衣服に汚れが付く恐れがあります。ジャージ等を上に着て作業を行いましょう。

◇ 家庭学習の進め方

- ① 授業内で完成できなかった場合など、一部の課題を宿題とすることや、放課後に制作をしてもらうことがあります。計画的に制作を進め、提出期限を守りましょう。
- ② 課題（テーマ）が発表されたら、身近にある雑誌やカタログ、写真や実物などを意識して見ておくと、作業をスムーズに進めることができます。
- ③ 好きなもの、変わったもの、個性的なもの、綺麗なものなど、普段から色々なものに興味を持ち、そこから様々なことを感じ取れるようにしておくといいでしょう。
- ④ 美術作品は本物に触れることで良い影響を受けることができます。機会があれば展覧会などへ、行ってみるのも良いと思います。

◇ テスト前の学習

- ① テストは、教科書や資料集、プリントや授業で行った内容等を中心に問題が出題されます。プリントや教科書、資料集等に目を通し、授業の内容をよく思い出しておきましょう。
- ② 配布されたプリント類は全て、ファイリングしておきましょう。

◇ 1年間の学習内容（2年生）

前 期		後 期	
月		月	
4月 ～	オリエンテーション ・視覚的効果について ・ポスター制作	12月 ～	・身近な飲料のパッケージデザインについて学ぶ ・パッケージデザイン作り
7月	鑑賞 デザイン／鑑賞	3月	
9月 ～ 11月	・自分でデザインした形を彫る (彫金)		

◇ 評価

①「知識・技能」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしているか、表現方法を創意工夫し、創造的にあらわしているかを評価します。美術的知識に基づいた言葉を覚えるだけでなく、表現や鑑賞において造形的な視点に基づく判断がなされているかや、創造的な技能が身に付いているかも見ます。

②「思考・判断・表現」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方が深められているかを評価します。最終的なアイデアのみでなく、それを生み出すまでの過程や、鑑賞活動においてどのような見方、感じ方をしたかも見ます。

③「主体的に学習に取り組む態度」（評価資料：授業に取り組む姿勢・作品等提出物・定期考査 等）

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしているかを評価します。学習過程で習得する「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、自らの課題に結びつけ、主体的に学習や制作活動の中で発展させていこうとする意欲を見ます。

【保健体育科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【評価の観点】

〔体育分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解するとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。

〔保健分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。

【各学年の目標】

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

〔体育分野 第3学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

〔保健分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

技術分野の学習を進めるにあたって 第2学年

☆2年 技術分野の課題は

課題は：

- ①エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを学習する。
- ②生物育成に関する技術を学習する。

それを克服するために：

- ①発電機能のある、スピーカーの製作を通してエネルギー変換について学習する。
- ②栽培を通して生物育成に関する技術を学習する。

発展的な学習のために：

- ①調べ学習を経て、コンピュータを使用した作品づくりを行います。

☆授業の進め方

技術の学習内容は「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」の4分野になっています。

第2学年では、前期は「エネルギー変換に関する技術」、後期は「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」を学習します。前期においては、発電の仕組みから、家庭や産業で使用する電気について学習します。

後期においては、主に野菜の苗を育てながら生物育成について学習していきます。

☆学習する上で注意してほしいこと

【技術室の使用に関して】

- ①大変危険な機械がたくさんあります。絶対に勝手に機械に触れないでください。特に技術室木材加工部屋の後部にある、丸鋸盤や自動かな盤は大変危険なので、鉄柵の後ろには入らないでください。
- ②工具を安全に取り扱ってください。のこぎりやキリ、はんだごてで人を傷つけることがないように、細心の注意をはらってください。
- ③整理・整頓を心掛けてください。釘が1本落ちているだけでも危険です。

※ 絶対に技術室から物を持ち出さないでください。のこぎりやその他工具だけではなく、紙ヤスリや釘なども持ち出すことは厳禁です。

☆家庭学習の進め方

技術分野では、家庭学習は特に必要ありません。そのかわりに、その日に学習した授業内容をよく復習してください。

☆ 1年間の学習内容

前期		後期	
月	1 生活や社会とエネルギー変換の技術 ・ 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ・ 身の回りにおけるエネルギー変換の技術	月	5 生物育成に関する技術 ・ 生活や社会と生物育成の技術
4	2 エネルギー資源の利用 ・ エネルギーの資源と利用 ・ 燃料を利用した技術 ・ 発電と送電のしくみ	10	・ さまざまな生物育成の技術 ・ 植物の栽培に必要な条件・容器栽培 ・ 生物を育てる技術の評価
5	・ エネルギー変換効率と省エネルギー ・ 運動の利用	11	6 生物育成技術による問題解決学習
6	3 電気の利用、エネルギー変換の技術による問題解決 ・ 電気エネルギーの特徴 ・ 光や熱に変換するしくみ ・ 動力や音、信号に変換するしくみ	12	7 情報に関する技術 ・ 双方向性のあるコンテンツによる問題解決
7	・ 電気回路と回路図 ・ 電気機器の安全な利用 ・ 電気機器の保守点検	1	※ 5～7 は天候、成長具合、時期をみて同時に行う
8	4 エネルギー変換の技術による問題解決 ・ 製作品の設計・製作 電気スタンドの製作(エネルギー変換を利用した製作品)	2	
9	製作の中で電気を供給する仕組み、電気回路、電気機器の安全性について学ぶ。	3	

※ 状況によって変更が生じることがある。

☆ 評価

技術分野の学習の評価は、下記3観点から行います。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活で利用されている、エネルギー変換、生物育成、情報に関する技術について関心を持ち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のための知識・技能を身に着けている。	エネルギー変換、生物育成、情報に関する技術を学ぶ中から、問題を見いだして課題を設定し、その課題を解決できるような力を身に着けている。	エネルギー変換、生物育成、情報に関する技術を学ぶ中から、自分の生活に関わる技術の課題を解決するために、主体的に取り組む、改善、実践しようとしている。
方法	ノート、作業	ノート、作業	ノート、作業

教科としての評価は、技術分野(50%) + 家庭分野(50%) = 「技術・家庭」(100%)として成績を出します。もし、技術分野か家庭分野のどちらかが得意でよく頑張ったとしても、もう一方で手を抜いてしまえば良い成績はつきませんので注意して下さい。

家庭科分野の学習を進めるにあたって 第2学年

○授業の進め方

「衣生活」と「消費生活・環境」を中心に学習をします。

【教室での授業】

☆教科書、プリント、ワークにそって進めます。

☆1時間の授業には、「先生の説明を聞く時間」「自分の考えをまとめ書く時間」「班やクラスで意見交換をする時間」があります。

【被服室・調理室を使う授業】

☆道具の使い方・基礎技法を確認します。実技テストを行う予定です。

☆班員と協力して実習します。

☆全員が少しずつ分担して片付けます。

☆振り返りシートにその日の実習についてまとめます。

○学習するうえで注意してほしいこと

【1】持ち物

☆教室……①教科書、②ワーク（クラス・番号・名前を明記）、③プリント、④筆記用具（色ペン2色あるいは色鉛筆2色を含む）

☆調理室……①エプロン、②三角巾、③ミニタオル1枚（あるいはハンカチ2枚）、④髪を束ねるもの（あるいは朝から束ねてくる）、⑤体調が万全であること、⑥その他指示したもの

☆被服室……①ノート、②筆記用具、③名前ペン、④小学校で使っていた裁縫セット、⑤その他指示したもの

※材料は被服室に置いておきます。

【2】実習は、慎重かつ真剣に取り組みましょう。

【3】実習中は、自分や友人を傷つけないように安全に留意しましょう。また、プリント、ワークは予告なく回収しても自信を持って提出できるようにまとめておきましょう。

【4】実習中は、班で協力し友達の良いところを学びましょう。

【5】想像力をはたらかせて、授業の内容と生活を関連付けましょう。

【6】立ち歩きは禁止です。用があるときは手をあげましょう。

【7】黒板の内容と、先生の話の中で大切と思ったことは書き留めましょう。

（ヒント：何度も説明したこと・大きな声で説明したこと・色チョークを使ったときなど）

【8】提出〆切を守るように最大の努力をしましょう。

○家庭学習の進め方

☆学習内容に合わせて家庭学習を指示します。期日までに仕上げましょう。

☆生活に関わる事物に興味を持ちましょう。（ニュース、新聞、書籍類、パンフレット、パッケージなど）

☆15分でよいので、その日のうちに復習をしましょう。（勉強の目安時間はテスト前を除く。）

☆家庭でお手伝いをしましょう。

○テスト前の学習

☆教科書、ワーク、そしてプリントを見直す。

☆実習したことを思い出す。

※テストは期末考査のみ**年間2回**です。毎回50点満点です。

○1年間の学習内容

前期		後期	
月	B 衣食住の生活	月	B 衣食住の生活
4	家庭分野のガイダンス（衣生活） 1 衣服で伝わるメッセージ	10	9 生活に役立つものの製作 コンパクトバッグの製作
5	2 自分らしくコーディネート	11	9 生活に役に立つものの製作 コンパクトバッグの制作
6	4 上手な衣服の選択 5 まかせて衣服の手入れ	12	10 持続可能な衣生活を目指して
7	6 布の繊維に応じた手入れ 7 めざそう洗濯名人	1	C 消費生活・環境 1 家庭生活と消費
8		2	2 購入・支払いと生活情報 3 消費者被害と消費者の自立
9	3 つなげよう和服文化 8 補修や収納・保管	3	4 持続可能な社会

※状況により変更する場合があります。

○評価

家庭分野では下記の3観点から総合的に判断します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族・家庭・衣食住・消費・環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決方法を考え、実践・評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。	家族の一員として、生活をより良くしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
方法	☆定期考査 ☆実技テスト ☆ワーク、プリントなど ☆振り返りシート	☆定期考査 ☆作品 ☆ワーク、プリントなど ☆振り返りシート	☆作品 ☆ワーク、プリントなど ☆授業の取り組み ☆振り返りシート ☆定期考査

なお、技術分野と合わせて最終評価としますが、その割合は5:5です。